

- 1 『ニッポンの海外旅行 若者と観光メディアの50年史』(山口誠著 筑摩書房、2010年)
- 2 『華人社会がわかる本』(山下清海編著 明石書店、2005年)
- 3 『人間の大地』(プラムディヤ・アナンタ・トゥール著 押川典昭訳 めこん、1986年)
- 4 『鏡の中を数える』(プラープダー・ユン著 宇戸清治訳 タイフーン・ブックス・ジャパン、2007年)
- 5 『地図がつくったタイ』(トンチャイ ウィニッチャクン著 石井米雄訳 明石書店、2003年)
- 6 『東南アジアの港市世界』(弘末雅士著 岩波書店、2004年)
- 7 『東南アジアを知る—私の方法』(鶴見良行著 岩波書店、1995年)
- 8 『岩波講座 東アジア近現代通史』全11巻(和田春樹ほか編集 岩波書店、2010年)
※2010年10月現在、第2巻『日露戦争と韓国併合—19世紀末-1900年代』が刊行済み
- 9 『辺境・近境』(村上春樹著 新潮社、1998年)
- 10 『グランドツアー 18世紀イタリアへの旅』(岡田温司著 岩波書店、2010年)

若者の海外旅行離れは観光ビジネスの懸案だが、1はメディア論の視点から「歩き方」やHISの功罪を検証する。それでも旅の準備であれこれを想像するのは楽しい。私はなぜ旅行するのか？

海水至る所華僑あり。どこへ行っても「仕事」になる理由は彼らにある。2のグローバル化を地で行く華人たちの移動と定着の諸相は、各地の中華料理屋や食材店に入ればわかる。もう一つの理由は現地の人々とのおつきあい。予習のために文学作品を繙こう。

亡くなるまで東南アジア唯一のノーベル文学賞候補だったプラムディヤの「ブル島四部作」はともかく面白い。完結編の『ガラスの家』まで日本語訳で6冊あるが、3だけでも世界一のイスラム人口を擁する大國インドネシアへの理解と関心が深まる。ついでに自分も関わった『東南アジア文学への招待』を挙げたいところだが、ぐっと堪えて浅野忠信主演の映画「地球で最後のふたり」[インビジブル・ウェーブ]の原作者プラープダー・ユンの作品4を推奨。タイ人から見た日本人が垣間見える。

タイ人は自国タイをどのように思い浮かべるのか。その国民という観念の創出にかかわったのは、地理学と地図だった。魅力的な立論5は今も新鮮だ。旅行博でカンボジアブースに立ち寄ったら領土問題を抱える国境の世界遺産プレアヴィヒア寺院を、パンフ冒頭でアピールしていて、なるほどと思う。

国境の細部は現在でもあやふやだが、たとえば「東南アジア」という地域は何を共有しているか。16~17世紀は「交易の時代」、アンソニー・リード言うところの"Age of Commerce"だが、西洋目線の「発見の時代」が日本人によって再定義された「大航海時代」と重なる。移動と交易によるつながりに重点がある視点だが、原典の『大航海時代の東南アジア』は翻訳の評判がよくないので、6で旅先の都市の歴史と関係を知ろう。

アジアを歩くための手がかりになるのが、先駆的なフィールドワーカー鶴見氏の著作。7の元になったのは都内の大学で行われた連続講演で、故鶴見氏は非常にリラックスして闊達にしゃべっておられた。それがそのまま本になるような講義、ぜひしてみたいものだ。岩波講座でも繰り返しアジア史は取り上げられているが、最新の8は抗争の自国史から和解の共通史への転換を目指す。学術的視座の転回は、植民地を有した「帝国日本」に連なる者として、現代の歴史問題のヒントになるだろう。

『ねじまき鳥クロニクル』でノモンハンと満州(ママ)のことを書いたら、雑誌「マルコポーロ」から、実際にそこに行ってみませんかという話が来た」とある。9の「ノモンハンの鉄の墓場」は死と悲劇と暴虐にまつわる「ダークツーリズム」旅行記の傑作。こうした旅に興味があるなら「観光コースでないシリーズ」(高文研)が手掛かりになる。

昨今唯一セールスが落ちないのは体験型旅行だが、18世紀イギリス人のイタリアへの「グランドツアー」は、貴族子弟の教育の総仕上げだった。10は現代の体験型旅行に連なる旅のかたちを、イギリス人ゲストでなく、ホスト側から描いたところに新味がある。

おしえてライブラリー

第11回

iGoogle

Googleの個人向けポータルサービスであるiGoogle。そこで使うことが出来る「ガジェット」と呼ばれるパーツの一つとして、立教OPACガジェットを用意しました。OPACのページでなくても検索が可能です。まずはiGoogleの「コンテンツを追加」にて「立教」で検索してみてください。

Googleツールバー立教OPACボタン

Internet Explorerなどのブラウザにインストールできる「Googleツールバー」。そこにも立教OPACの検索ボタンをインストールすることが出来ます。「Googleツールバーボタンギャラリー」で「立教」を検索すると、ボタン追加のアイコンが表示されます(立教の盾のマークのアイコンの方を選んでください)。ツールバーの検索ボックスに入力したキーワードで立教OPAC検索が可能になります。



Your Library 第12号(通号71)

発行日 2010年10月28日
編集 井川 充雄(図書館副館長)
発行人 石川 巧(図書館長)
発行 立教大学図書館
http://www.rikkyo.ac.jp/research/library/
連絡先 TEL 03-3985-2630

立教大学図書館モバイルメニュー

携帯電話から
1 蔵書検索
2 開館スケジュール
3 図書館設置PC利用状況
の確認ができます。



今号から「Your Library」のロゴをリニューアルし、表紙写真も図書館を飛び出してみました。ちなみに、iPadに映した画像は、立教学院諸聖徒礼拝堂の入り口に立って真上を仰ぐと見えるステンドグラスです。池袋キャンパスを訪れた際には、ご覧になってみてください。

YOUR LIBRARY

特集「知りたい」をもっと楽しみたい人へ

CONTENTS

2-3

「知りたい」をもっと楽しみたい人へ

4

読書ナビ
おしえてライブラリー

no. 12
2010.10.28
AUTUMN ISSUE

「知りたい」をもっと楽しみたい人へ ～意外と知らない！本にまつわるデジタルツールのご紹介～

KindleやiPadに端を発した、電子書籍などデジタル・コンテンツの話題が日本でも熱を帯びてきました。

2010年は、電子書籍元年と言われています。

ですが、従来のスタンダードな読書スタイルを変えようとしているのはiPadだけではありません。

直観的でわかりやすい操作と縦横無尽なコンテンツ。そんなデジタルやウェブの軽快さと、印刷されたものの確かさを組み合わせて、「読む」ことをもっと刺激的に演出してくれるツールをご紹介します。

本の歴史を塗り変えるか

iPad

今年に入って、電子書籍についての話題が急激に盛り上がっています。図書館で電子書籍を扱うようになるのはまだ少し先になると思いますが、その時に備えてiPadを使ってみました。



感想
約700gという重さはPCと比べればかなり軽いものの、片手で支えるにはやはり重い！揺れる電車の中で操作するのはかなりの握力が必要で、とても現実的ではありません。座ってひざの上で操作するのが自然なスタイルでしょう。液晶は非常に鮮やかで見やすいです。また、画面のネガポジ反転、拡大・縮小操作に優れているので、自分専用に画面をカスタマイズすることも容易です。

電子書籍のソフトはまだ種類が少ない上に、10インチの小さな画面で書籍や新聞を読むこと自体に違和感を感じますが、携帯電話の画面でメールを読むのに慣れたように、このサイズで紙面を読むことについても、「慣れ」の要素は大きいのではないかという印象を持ちました。



本棚を共有する楽しみ

ブックログ

Web上に本棚を作り、自分の読書記録として使ったり、読んだ本について他の人と感想を共有することで、新しい本を「発見」することが出来ます。

感想
「本が好き」と「他人と本について語り合いたい」という人だけでなく、他人の本棚やレビューをのぞきたい人も楽しめるのが本サービスの大きな特徴。自分の読書体験を他人と共有するという体験は、小中学校を卒業すると意外とないので、新鮮な印象も受けます。登録・検索できるアイテムは本だけでなく、マンガ、CD、DVD、ゲームと多彩。随時更新される新刊情報・ランキング情報も役立ちます。



こんな論文どうですか？

論文ったー

Twitter上で多く話題にのぼっているキーワードを自動収集して、CiNii（サイニィ：学術論文データベース）で本文が読める論文を自動的に紹介します。

大学でも公共図書館でも

カーリル

全国の図書館の蔵書情報と貸し出し状況を簡単に検索できるサービスです。

複数の図書館を一発でまとめて検索できるのが最大の特徴。

例えば、立教大学、豊島区の図書館、そして地元の図書館を登録しておけば、ワンクリックでまとめて検索可能です。検索結果で貸出できる蔵書があるかについても一目で分かります。



Library+amazon!

Libron (リブロン)



amazon.co.jpの商品検索画面に図書館の蔵書検索結果を自動的に表示させることができるアドオンです（Firefox、CHROMEに対応 Internet Explorerは未対応）。

インストールしておくと、amazonで本を探すと同時に自分が指定した図書館で所蔵しているかどうか一目で分かります。

図書館で予約してもよし、たくさん予約が入っていれば、もちろんそのままamazonで買うこともできます。

カーリルやリブロンは、amazonの高機能な検索システムを利用していることが最大のメリットといえます。つまり、個々の図書館のOPACを超えた性能で図書館の蔵書検索を行えるということです。

例えば「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」（岩崎夏海著 ダイアモンド社）を探す場合でも、「もしドラ」という略称では、どの大学のOPACでもヒットしません。

しかし、amazonであれば、略称はもちろんのこと、「もし」を「もしも」に間違えて検索した場合でもヒットします。検索精度の高さでは、最も高機能で使いやすいOPACであるといえるかもしれません。

ただし一方で、amazonにデータのない学術雑誌や紀要は、図書館のOPACでしか検索できません。このような限界については意識しておく必要があるでしょう。